

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ナンウェーブ
(ユニット名)	西
所在地 (県・市町村名)	岐阜県安八郡輪之内町
記入者名 (管理者)	宮田 幸太郎
記入日	平成 20年 05月 27日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着という分野が出来る前からの理念なので言葉にはなっていないが、地域の保育園との交流や運動会への見学など、地域とのつながりはできていると思う。	○	いろんな地域の人達と交流する機会を増やしたい。
<input type="checkbox"/>	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員がみな理解している、日々取り組んでいる。	○	定期的に理念の読み上げを行っている。。
<input type="checkbox"/>	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や地域の人々には、それとなく理解し受け入れされていると思う。	○	入所の際に施設としての方向性や理念を説明し、家族の意向も組み入れ話し合いをしている。
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩にでかけた時に近所の方から、野菜や果物をいただいたりするくらい溶け込んでいます。	○	散歩が職員や利用者にとっても、地域とのコミュニケーションの場であり、うまく機能しています。
<input type="checkbox"/>	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会などに参加している。地域のイベントにも足を運んでいる。	○	地域からの認知度もあがってきて、交流する機会が増えました。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	施設外での職員でのボランティアなどは、呼びかけは行ってない。	×	1回だけ包括支援員の人達と勉強会？に行った職員がいる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で指摘された部分で改善に取り組めたと思う。	○	自分たちを自分たちで見直すいい機会だし、外からの視点で助言がもらえるのもいい機会と思う。が、毎年じゃなくてもいい気がする。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はとても地域密着には役に立っている内容となっていて、いい発表や意見交換の場である。	○	交流の場としてもとてもいいのだが、2ヶ月に1回程度ってのは、取り組むと感ずると思いますが、ものすごく頻度が多く感じる。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月空き部屋状況などの報告をFAXで行い、定期的に雑談なども含め情報交換を行っている。	○	連携は細かくとれていると思う。情報もスムーズに行き来する。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	介護職員はまだまだ勉強できていないと思う。なかなか機会もない。	×	たまにある勉強会などには、なるべく出席できる機会を持ち、参加していただく。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にも参加している。施設の中でも虐待は今のところ確認はされていない。声かけも含め防止に努めている。	○	虐待はない。オムツ交換や入浴の時に身体的にはチェックできているし、言葉の虐待も確認されていない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	十分な説明ができていると思う。特に生命や身体的な部分については、お互いに納得できるまで話をしている。	○	それぞれの話の担当があり、よりわかりやすく説明できる仕組みを取っている。
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	第三者委員会を設けて環境は整えている。	○	ご意見箱の設置や第三者委員の連絡先の掲示など行っている。
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	便りなどを活用して報告をしている。面会に来られた時には、看護師が直接健康状態などの説明も行っている。	○	緊急時なども、家族に報告し対応している。
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	第三者委員会を設けてしっかり環境は整えている。	○	ご意見箱の設置や第三者委員の連絡先の掲示など行っている。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	連絡ノートなどに意見や提案をあげていただき、良いことは前向きに取り組んでいると思う。	○	意見の吸い上げは上手くできていて、それに対する行動もできている。
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	勤務の調整は毎月必ずある。家族や利用者が優先される。	○	面会の約束が遅い時間になり、その対応する職員が勤務時間外だとしても、その時間になるべく勤務しているようにしている。
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	なるべく退職される職員はないように努力はしている。今のところは利用者へのダメージはない。	○	長い期間務めていただいている職員はまず利用者とも職員間とも円満にお別れされている人ばかりと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加していただける体制になっている。	○	研修の費用も施設で負担している事がほとんどです。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	たまに交流は行って、お互いにいい所を学んでいる。	○	同じ職種同士、施設外で仲間ができて、うまくいいところを盗んでいると思われる。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務体制や業務内容はストレスとならぬ様に環境を整えている。	○	具体的に何をしてもらえばストレス軽減になるかは不明だが、職員が働きやすいように行動はしてもらっているような気がする。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員はみな頑張っていると思う、各々ちゃんと評価されている。	○	社会的には環境を整えている。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	その都度ケアマネ、職員が対応しています。	○	個々の状態に合わせた対応ができていると思う。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ケアマネが中心となって家族とコンタクトをとっている。	○	個々の家庭状態に合わせた対応ができていると思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネや看護師が素晴らしい支援内容をまとめてくれる。	○	だんだん経験が増え、いろんなケースを想定できるようになってきていると思う。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	状況に応じて、短期利用から利用された方もみえます。	○	あくまで利用者が中心のはずなのだが、入居のさいなどは現実では家族が中心になりかけているかと思われる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様一人一人に対して、かなり人間味のある介護ができてきていると思う。	○	職員の身の回りの世間話とかにも一緒になって会話に参加されます。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	積極的に面会などにきていただける家族とはいい関係が結べていると思う。	○	家族によっては、職員が顔を見た事のない家族もいると思う。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者様、家族様、職員、いい関係ができています。	○	もっと家族様には積極的に行事にも参加していただきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望で、小さな同窓会みたいな会にもお連れした事がある。	○	人は面会にきてくれるが、場所に向くのはなかなか難しい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	会話をつなぐ努力はしている。仲のいい、悪いが結構わかる。あまり悪いって程悪い関係はない。	○	皆さん基本的に仲がよいです。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	施設で看取りをさせていただいたご家族様はたまに遊びにきていただけます。	○	逆に他の施設に移られた方は、家族から連絡がくる事はほとんどないです。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なじみの物を部屋にいれていただいたり、希望に応じた家具を入れていただいたり、本人や家族の意向にそっていると思う。	○	ひごろから利用者様との会話は大切にしている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護させていただくうえで生活歴などは出来る限り把握している。	○	職員のだれでも読めるように情報を提供しています。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護職員、看護職員、ケアマネ、いろんな職種からいろんな視点で利用者様の状態把握に努めている。	○	毎日の積み重ねで週に1回あるケア会議で報告検討を行い、状態に合わせた支援を心がけている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	最善な介護計画の作成のために、いろんな情報の収集をおこなっている。	○	家族等以外にも介護、看護、いろんな視点からの意見も取り組み家族も納得のプランがたっていると思う。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは日々の評価でチェックして毎週のケア会議などで見直しされて、より良いプランに変更されます。	○	プランの変更は状況に合わせてこまめに行われている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の生活の記録は個別で管理されています。	○	変わった事などは申送りで報告されて介護計画の見直しの材料にもなります。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	今までに家族の要望で短期利用を利用した事があります。	○	現在は空き部屋がなく、柔軟な対応にも限界があります。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員さんは運営推進委員のおかげで仲良くなれたと思います。地域のイベントには、参加可能な利用者様は参加しています。	○	あまり、本人の意向としては意見がでてない。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	話をする事はある。訪問リハなど。	○	が、そのサービスが金銭面の問題で断念する事が多い。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	長期の利用になる利用者様がほとんどです。地域包括さんとは情報交換できていると思う。	○	地域包括支援センターさんとも綿密にお付き合いしています。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様毎にしっかりと医師との連携が取れている。	○	医師と家族様と施設とが、スムーズに情報を伝達している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけの病院には検査機材が充実している。	○	家族も医師の説明の時に同行していただけるだけしていただいて、しっかり説明をうけている。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎日看護職員が勤務していて病院との連携もスムーズです。	○	細かな事から病院と連絡を取り合っています。。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	看護職員が入院時に付き添い、正確な情報を入手して、できる限り早い退院でも対応できるように取り組んでいる。	○	入院中も面会にいきながら状態報告を聞いたり積極的に病院と連携をとっている。どんな状態で退院されるかなども把握してくる。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアは他のどのグループホームにも負けないくらい力が入っている分野で、家族、医師としっかり方針を決めている。	○	最近施設で看取る事が多い感じがする。家族とこまめに連絡して、立ち会えるように努力はしています。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族様や医師と、施設内で出来る範囲の説明や協力内容をしっかり話し合いができています。	○	訪問看護も利用するなどしています。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報提供はしっかりと行っています。	○	住む場所が変わる事によって誰しもが何かしらの心への負担はあると思います。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者様は基本的に人生の先輩達なので、一人一人誇りを持ってみえるはず、当たり前だがきちんと接しています。	○	他の利用者様に、なるべく誰の話をしているか悟られないように、報告などを行っている。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	意思表示できる事については利用者様に判断していただき納得していただいてから介助させていただいている。	○	選択できる状況なら本人に選び決定していただいたりする。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本は利用者様中心で過ごしていますが、そんなに希望がでるわけでもなく、職員の行動にあわせる状況もないわけではない。	○	外出希望があれば、職員の人数にもよりますが散歩など積極的に行っています。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容や美容はお店に行く事もできるし、違う方が訪問してしつで行っていただく事もできます。本人や家族の意向に沿っています。	○	移動が困難な利用者様は訪問美容で決まってしまう。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しんでもらっていますが、一緒に食事をする事は、いろんな問題があり難しい。	×	職員はお弁当がほとんどで、お金を払ってまで利用者様と同じ食事は嫌だという意見が多く、違う内容の食事を一緒にすると今度は利用者様が嫌そうな印象を受ける。うらましがられるなど。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物や食べ物は基本自由です。嚥下困難な利用者様は検討します。煙草やお酒は健康上の理由を全面的にやめていただいています。	○	以前は煙草も事務所で吸っていただいていたのですが、最近では誰も吸いません。不健康です。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツを外す方向はあまり期待できていません。	×	排泄のパターンなどは結構把握していますが、オムツが外せないのが現状です。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に職員が介助しないと入浴できない利用者様なので、逆になかなか利用者様から変わったタイミングでの入浴希望はできません。が、必要に応じて、どんな時間でも対応はする気持ちです。	○	さすがに利用者様が自分で風呂の湯を入れて入って事がなく、職員の判断になる事になります。希望ができればちゃんと入浴していただいているとおもいますが。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	寝たい時に寝ていただき、起きたい時に起きていただいています。	○	体調が悪いのに無理されそうな時には嫌々でも休んでいただく事はあります。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	なかなか健常者でも毎日絶対楽しいって人はいないと思うが、職員がなにかしら工夫をして楽しめるような時間はもっている。イベントなどは確実に楽しんでもらえていると思う。	○	あまり利用者様本人の体力的に無理をせず、何か刺激になるものを利用者様に提供したいと頑張っています。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様によっては、自分で少しだけお金の管理をしていただき、必要に応じてそこから支払いされる。	○	大きな買い物は基本的に家族が購入されて持ってきていただくか、承諾をいただいた後に施設側で買いに行く。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は希望があれば随時行きます。	○	散歩に職員は同行します。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	計画を立てて、家族の了承も得てからその日の体調をみて外出支援を行っています。	○	木曽三川公園や、百梅園は計画をたてて、散歩で行ける所は、天気や体調がよければ、希望がでたら行きます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は自由です。ポストまで行けない時は、職員がだしてきます。	○	明らかに現実離れた内容の場合は話をごまかしたりもします。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問、面会はまったく問題ありません。お茶や珈琲もおだしします。	○	他の利用者様が不穏になることもあるので、なるべく自室にて面会などしていただいています。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。身体的にケガをさせない為等に必要な時には家族に了承をもらっている。	○	拘束と安全とは紙一重ですが、気をつけています。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間からの鍵の開け忘れや、どーしても鍵が必要な時以外は開錠されている。居室に鍵はない。	○	玄関ですが夜間は鍵をかけている。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	把握していると思う。たまに知らない間に外出している事がある。基本外出には同行している。	○	無断外出であわてない様に気をつけている。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人個人では危険な物を所有してまらってはいないと思う。	○	基本的に危険になる物がある場所には職員が待機していて、目が届くようになっています。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員は知識を一通りは持っている。対応も文章化して持っている。	○	事故防止は勿論の事だが、事故になった時の対応も的確に行えるように資料の配布は行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	資料の配布は全職員にしている、訓練の勉強会や研修は参加できる限りしてもらっているが、まだ全ての職員ってわけではない。	×	病院の理学療法士さんに定期的に勉強会をしていただいている。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の協力はいただけるように話が進んでいます。日中の訓練は定期的に行っている。夜間の訓練は行った事がない。	○	地域で災害時の対応の話をした事があるが、まずは、自分が7割地域が2割、国が1割。とにかくまずは自分たちで何とかしなければと思う。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアマネや看護師を通して転倒のリスクなどをはじめ、きちんと説明されている。	○	日頃の状態観察からいち早く危険を見つけ出し、早め早めに対応していると思います。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	家族様や病院と細かく連携しています。	○	気が付いた事は必ず誰かに確認してみる。自分だけの思い過ごしかって事にならないようにしています。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	大切な薬に関しては変更があるたびに送りされます。	○	基礎知識レベルでしか把握してないと思う。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	牛乳をメインに工夫している。	○	おやつの際に便秘気味の利用者様で牛乳飲める方とかは、牛乳系を使用した水分を摂取してもらっている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	洗面所で口腔ケアできる利用者様は食後自ら行ってもらう様に誘導しています。全介助の利用者様はスタッフが毎日口腔ケアを心がけています。	○	口腔ケアは歯科衛生士が中心にとりくんでいます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様毎に提供する食事の形状を変えたりして、少しでも安全に栄養や水分を摂取していただけるようになっている。	○	食事、水分量は表に記入して管理している。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザは予防接種を、タオルは使い捨ての紙タオルに切り替えるなどの感染対策を実施している。	○	嘔吐などの時の対応も全職員に把握してもらっている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器などは乾燥機で乾燥させたりしている。	○	菌が繁殖しにくい環境をなるべく維持できるように取り組んでいる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	スロープは設置しており、車椅子はスムーズに通れる。特別工夫があるかと問われると、ないかもしれない。	○	家族からいただいた花などは植えたりしています。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	春、秋、冬は快適であるが、夏場がとてつもなく暑い時がある。	×	屋根に水をまく設備の設置を検討している。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間で一人になる事は難しい環境かもしれない。職員が気を配るしかない。	×	椅子の配置で気のあった仲間同士の会話は成り立っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物を部屋においたり、小さいながらに居心地はいいと思う。	○	部屋の使用する家具、その配置などを希望通りに近い形で実現している。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	においは消臭剤や換気で問題なし。室温は夏が大変です。でも利用者様の状態に合わせて室温管理には努めている。	○	換気には気を使っている。夏場はエアコンに頼っている。すだれを西日の当たる部屋の外につけるなども工夫はしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ドアの通行幅が狭い、洗面所の入り口が1人分の幅しかないなどがなんとかしたい。	×	ハード面の改善は難しいので、その分職員が気を配ってカバーしている。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者様とせっているうちに、どの程度なら大丈夫かを見極め、混乱や失敗はなるべくされないように介助している。	○	たまに自立より介助が優先になってしまう事があるかもしれない。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物正面の駐車場スペースにて屋外のオヤツの時間をつくるなどしている事がある。	○	裏には畑があるので、積極的に利用者様と収穫などをしたい。

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

私たちの施設では、看取りまでを前提とした入居が多く医療面的にも重度の方が多い。医療面が特に充実していると思う。